

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 東海財務局長

【提出日】 平成30年6月29日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自平成28年11月1日至平成29年1月31日)

【会社名】 東建コーポレーション株式会社

【英訳名】 TOKEN CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼会長 左右田 稔

【本店の所在の場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【最寄りの連絡場所】 名古屋市中区丸の内二丁目1番33号

【電話番号】 (052)232 - 8000(代表)

【事務連絡者氏名】 広報IR室 室長 尾崎 健太郎

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社名古屋証券取引所
(名古屋市中区栄三丁目8番20号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社の平成30年4月期決算の作業過程におきまして、営業職社員に支払われる報奨金に係る会計処理に一部誤謬があり、当社の過去の決算において、販売費及び一般管理費が過少に計上される等、報奨金の期間帰属に誤りが生じていることが判明致しました。当社では従来、報奨金の支給時期に費用を計上しておりましたが、監査法人との協議の結果、これを受注契約時に計上するべきものと判断致しました。当該誤謬には金額的な重要性が認められるため、過年度に公表した有価証券報告書等を訂正することと致しました。

この結果、第41期第3四半期の四半期連結財務諸表において、販売費及び一般管理費が1,017百万円、その他の流動資産が1,700百万円及びその他の流動負債が5,539百万円それぞれ増加し、法人税等調整額が312百万円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が1,017百万円、四半期純利益が705百万円及び利益剰余金が3,838百万円それぞれ減少しております。また、第40期第3四半期の四半期連結財務諸表において、販売費及び一般管理費が436百万円増加し、法人税等調整額が109百万円減少したことにより、営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益が436百万円、四半期純利益が327百万円それぞれ減少しており、第40期の連結財務諸表において、その他流動資産が1,388百万円及びその他の流動負債が4,521百万円それぞれ増加し、利益剰余金が3,133百万円減少しております。

これらの訂正により、当社が平成29年3月16日に提出致しました第41期第3四半期（自平成28年11月1日至平成29年1月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものであります。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しております。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

2 監査証明について

1 四半期連結財務諸表

3 【訂正箇所】

訂正箇所は____を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間		自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日	自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日	自 平成27年5月1日 至 平成28年4月30日
売上高	(百万円)	207,481	222,414	283,731
経常利益	(百万円)	9,885	12,337	13,043
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	(百万円)	6,254	8,184	8,159
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	6,165	8,357	7,305
純資産額	(百万円)	60,868	69,081	62,007
総資産額	(百万円)	140,713	152,829	151,062
1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	464.76	608.26	606.33
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)			
自己資本比率	(%)	43.3	45.2	41.0

回次		第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成27年11月1日 至 平成28年1月31日	自 平成28年11月1日 至 平成29年1月31日
1株当たり四半期純利益	(円)	191.56	293.31

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益につきましては、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び子会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1)業績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済・金融政策を背景に、雇用・所得環境の改善がみられる等、緩やかな回復基調で推移しました。一方で、中国を始めとするアジア諸国の景気の下振れや、英国のEU離脱問題、米国新政権の政策運営等、海外経済の不確実性の高まりや金融資本市場の変動による影響等のリスクも存在しており、景気の先行きについては不透明な状況が続いております。

建設業界におきましては、政府による各種住宅取得支援策に加えて、マイナス金利政策により住宅ローン金利の水準が低い状態で推移したこと等により、新設住宅着工戸数は74万4千戸（前年同期比7.0%増）となり、持ち直しの傾向が続きました。また、相続税の税制改正を背景に賃貸住宅建設に対する需要は底堅く、新設貸家着工戸数は32万6千戸（前年同期比11.4%増）となり、堅調に推移しております。

このような状況の中、当第3四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、売上高は2,224億1千4百万円（前年同期比7.2%増）となりました。利益面におきましては、営業利益120億5千4百万円（前年同期比26.4%増）、経常利益123億3千7百万円（前年同期比24.8%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益81億8千4百万円（前年同期比30.9%増）となりました。

セグメントの業績は以下のとおりであります。

建設事業

建設事業におきましては、前連結会計年度の受注高が増加したことにより、当第3四半期連結累計期間の完成工事高は前年同期と比較して増加しております。利益面におきましては、利益率の高い木造2×4工法の賃貸建物の比率が増加したこと等から、完成工事総利益率には改善がみられました。この結果、建設事業における売上高は1,103億5千4百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は123億7千万円（前年同期比23.5%増）となりました。

また、当第3四半期累計期間の当社単体における総受注高につきましては、1,298億2千9百万円（前年同期比15.7%増）となりました。

不動産賃貸事業

不動産賃貸事業におきましては、管理物件数の増加に伴うサブリース経営代行システム（一括借り上げ制度）による入居者様からの家賃収入及び管理料収入等の増加により、売上高は前年同期と比較して増加しております。また、賃貸建物の当第3四半期末の入居率は入居仲介促進のための各種施策に積極的に取り組んだことにより96.1%となり、高い入居率を維持しております。この結果、不動産賃貸事業における売上高は1,100億5千万円（前年同期比7.1%増）、営業利益は50億3千2百万円（前年同期比13.7%増）となりました。

その他

総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業で構成されるその他の事業における売上高は20億8百万円（前年同期比4.7%減）、営業利益は1億5千7百万円（前年同期は営業損失1千4百万円）となりました。

(2) 資本財源及び資金の流動性について

資産の部におきましては、受取手形・完成工事未収入金等が25億7千8百万円増加したものの、現金預金が42億8百万円減少したことから、流動資産は1,061億3千万円（前期末比0.6%減）となりました。一方で土地の取得により固定資産は466億9千8百万円（前期末比5.4%増）となったことから、資産合計は1,528億2千9百万円（前期末比1.2%増）となりました。

負債の部におきましては、未払法人税等が13億4千4百万円減少したこと等から、流動負債は577億1千2百万円（前期末比8.6%減）となりました。この結果、負債合計は837億4千7百万円（前期末比6.0%減）となりました。

純資産の部におきましては、利益剰余金が69億6百万円増加したことから、純資産合計額は690億8千1百万円（前期末比11.4%増）となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第3四半期連結累計期間において、以下の設備の新設を決定しております。

会社名	設備名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	投資予定額		資金調達 方法	着手年月	完了予定年月
				総額 (百万円)	既支払額 (百万円)			
(有)東建 大津通 B	栄タワーヒルズ (名古屋市中区)	不動産賃貸事業	建物・ 構築物	9,762	976	提出会社から の出資金	平成28年10月	平成31年2月

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	53,888,000
計	53,888,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年1月31日)	提出日現在発行数(株) (平成29年3月16日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	13,472,000	13,472,000	東京証券取引所 名古屋証券取引所 (各市場第一部)	単元株式数100株
計	13,472,000	13,472,000		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年11月1日～ 平成29年1月31日		13,472,000		4,800		16

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成28年10月31日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年1月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 16,600		
完全議決権株式(その他)	普通株式 13,207,700	132,077	
単元未満株式	普通株式 247,700		
発行済株式総数	13,472,000		
総株主の議決権		132,077	

(注)1 「完全議決権株式(その他)」の「株式数」欄には、証券保管振替機構名義の株式が100株含まれております。また、「議決権の数」欄にも、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数1個を含めております。

2 「単元未満株式」の「株式数」欄には、自己保有株式34株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年1月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 東建コーポレーション(株)	名古屋市中区丸の内 二丁目1番33号	16,600		16,600	0.1
計		16,600		16,600	0.1

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に準拠して作成し、「建設業法施行規則」(昭和24年建設省令第14号)に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年11月1日から平成29年1月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年5月1日から平成29年1月31日まで)に係る訂正後の四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金預金	95,856	91,648
受取手形・完成工事未収入金等	2 4,280	6,859
未成工事支出金	1,298	1,398
その他のたな卸資産	1,104	1,276
その他	4,277	5,019
貸倒引当金	74	71
流動資産合計	106,743	106,130
固定資産		
有形固定資産		
建物・構築物(純額)	11,672	11,316
土地	15,502	16,868
その他(純額)	4,558	6,317
有形固定資産合計	31,733	34,502
無形固定資産	1,107	1,157
投資その他の資産		
その他	11,760	11,342
貸倒引当金	281	303
投資その他の資産合計	11,478	11,039
固定資産合計	44,319	46,698
資産合計	151,062	152,829
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	2 26,468	25,355
未払法人税等	3,039	1,694
賞与引当金	1,641	695
役員賞与引当金	90	66
完成工事補償引当金	413	547
その他	31,469	29,352
流動負債合計	63,122	57,712
固定負債		
役員退職慰労引当金	643	667
退職給付に係る負債	2,755	2,874
長期預り保証金	18,345	18,329
その他	4,188	4,163
固定負債合計	25,932	26,034
負債合計	89,055	83,747

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,800	4,800
資本剰余金	16	16
利益剰余金	57,679	64,585
自己株式	88	93
株主資本合計	62,407	69,308
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	258	353
退職給付に係る調整累計額	663	585
その他の包括利益累計額合計	405	232
非支配株主持分	6	6
純資産合計	62,007	69,081
負債純資産合計	151,062	152,829

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
売上高		
完成工事高	102,572	110,354
兼業事業売上高	104,908	112,059
売上高合計	207,481	222,414
売上原価		
完成工事原価	67,358	71,944
兼業事業売上原価	99,211	105,752
売上原価合計	166,570	177,696
売上総利益		
完成工事総利益	35,213	38,410
兼業事業総利益	5,697	6,307
売上総利益合計	40,911	44,717
販売費及び一般管理費		
給料及び賞与	17,709	18,238
賞与引当金繰入額	445	444
役員賞与引当金繰入額	48	66
退職給付費用	263	365
役員退職慰労引当金繰入額	21	26
貸倒引当金繰入額	-	20
その他	12,886	13,500
販売費及び一般管理費合計	31,374	32,663
営業利益	9,536	12,054
営業外収益		
受取利息	112	90
保険代理店収入	205	129
その他	152	115
営業外収益合計	470	335
営業外費用		
クレーム損害金	51	17
その他	69	34
営業外費用合計	121	51
経常利益	9,885	12,337
税金等調整前四半期純利益	9,885	12,337
法人税、住民税及び事業税	3,224	4,004
法人税等調整額	406	148
法人税等合計	3,630	4,153
四半期純利益	6,254	8,184
親会社株主に帰属する四半期純利益	6,254	8,184

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
四半期純利益	6,254	8,184
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	71	94
退職給付に係る調整額	17	77
その他の包括利益合計	89	172
四半期包括利益	6,165	8,357
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,165	8,357

【注記事項】

(会計方針の変更)

(平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱いの適用)

法人税法の改正に伴い、「平成28年度税制改正に係る減価償却方法の変更に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第32号 平成28年6月17日)を第1四半期連結会計期間に適用し、平成28年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物に係る減価償却方法を定率法から定額法に変更しております。

なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 保証債務

施主の金融機関からの借入等に対し、次のとおり債務保証を行っております。

前連結会計年度 (平成28年4月30日)		当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)	
23名	59百万円	21名	56百万円

2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、前連結会計年度末日が金融機関の休日であったため、次の前連結会計年度末日満期手形が、前連結会計年度末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成28年4月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年1月31日)
受取手形	47百万円	百万円
支払手形	2,401	

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産及び長期前払費用に係る償却費を含む)は次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
減価償却費	1,041百万円	1,073百万円

(株主資本等関係)

1 前第3四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年7月29日 定時株主総会	普通株式	1,211	90	平成27年4月30日	平成27年7月30日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
未日後となるもの

該当事項はありません。

2 当第3四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年7月28日 定時株主総会	普通株式	1,278	95	平成28年4月30日	平成28年7月29日	利益剰余金

(2) 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の
未日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第3四半期連結累計期間(自 平成27年5月1日 至 平成28年1月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	102,572	102,801	205,374	2,107	207,481		207,481
セグメント間の内部 売上高又は振替高	3	1,001	1,005	2,848	3,854	3,854	
計	102,576	103,802	206,379	4,956	211,335	3,854	207,481
セグメント利益又は損失()	10,015	4,424	14,440	14	14,425	4,889	9,536

当第3四半期連結累計期間(自 平成28年5月1日 至 平成29年1月31日)

(単位：百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	建設事業	不動産 賃貸事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	110,354	110,050	220,405	2,008	222,414		222,414
セグメント間の内部 売上高又は振替高	4	942	947	3,125	4,072	4,072	
計	110,359	110,992	221,352	5,134	226,486	4,072	222,414
セグメント利益	12,370	5,032	17,403	157	17,560	5,506	12,054

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、総合広告代理店業、旅行代理店業及びゴルフ場・ホテル施設の運営に関する事業を含んでおります。

2 調整額の内容は以下のとおりであります。

セグメント利益

(単位：百万円)

項目	前第3四半期連結累計期間	当第3四半期連結累計期間
セグメント間取引消去	94	8
全社費用	4,794	5,497
合計	4,889	5,506

全社費用は、主に提出会社本社の総務管理部等管理部門に係る費用であります。

3 セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年5月1日 至平成28年1月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年5月1日 至平成29年1月31日)
1 株当たり四半期純利益	464円76銭	608円26銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(百万円)	6,254	8,184
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(百万円)	6,254	8,184
普通株式の期中平均株式数(株)	13,457,188	13,455,451

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年6月27日

東建コーポレーション株式会社
取締役会御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	松井夏樹
--------------------	-------	------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	城卓男
--------------------	-------	-----

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	伊藤達治
--------------------	-------	------

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている東建コーポレーション株式会社の平成28年5月1日から平成29年4月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年11月1日から平成29年1月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年5月1日から平成29年1月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、東建コーポレーション株式会社及び連結子会社の平成29年1月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成29年3月15日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。